(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3810208号

(P3810208)

(45)発行日　平成18年8月16日(2006.8.16)　(24)登録日　平成18年6月2日(2006.6.2)

(51)Int.Cl.		F I		
G06F 13/00	(2006.01)	G06F	13/00	640
H04N 1/00	(2006.01)	G06F	13/00	601A
H04N 1/32	(2006.01)	H04N	1/00	107A
		H04N	1/32	Z

請求項の数 1　(全 14 頁)

(21)出願番号　特願平10-123939
(22)出願日　平成10年4月20日(1998.4.20)
(65)公開番号　特開平11-306120
(43)公開日　平成11年11月5日(1999.11.5)
審査請求日　平成14年10月1日(2002.10.1)

(73)特許権者　000006747
株式会社リコー
東京都大田区中馬込１丁目３番６号
(74)代理人　100083231
弁理士　紋田　誠
(72)発明者　森　幸一
東京都大田区中馬込１丁目３番６号　株式会社リコー内

審査官　鈴木　匡明

最終頁に続く

(54)【発明の名称】通信端末装置

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

情報と、ワンタッチダイアルを識別するための識別番号とを対応付けて登録するワンタッチダイアル登録手段と、Ｆｒｏｍフィールドと Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドとを含む電子メールを送信する送信手段とを備えた通信端末装置であって、

ユーザからの指示に基づいて入力された前記識別番号に対応付けて登録した前記情報が、電子メールアドレスであるか否かを判断する判断手段と、

前記判断手段により電子メールアドレスであると判断した場合には、前記情報を前記Ｆｒｏｍフィールドに設定する一方、前記判断手段により電子メールアドレスではないと判断した場合には、前記情報を前記Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドに設定する設定手段とを備えたことを特徴とする通信端末装置。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、送信元情報と件名を含んだ電子メールを送信する通信端末装置に関する。

【０００２】

【従来の技術】

従来より、専用線を介して、あるいは、ダイアルアップ機能によりインターネットサービスプロバイダに接続されたローカルエリアネットワークに接続され、ローカルエリアネットワーク上およびインターネット上での電子メールのやりとりの機能を備えるとともに、

一般公衆回線を使用して所定のファクシミリ伝送手順により画情報伝送を行う機能を少なくとも備えたインターネットファクシミリ装置が実用されている。

【０００３】

このようなインターネットファクシミリ装置を利用すると、例えば、その中継機能を利用することで、ローカルエリアネットワークに接続されているワークステーション装置（パーソナルコンピュータ装置など）と、外部の一般公衆網に接続されているファクシミリ装置との間で画情報伝送が可能となり、非常に便利である。

【０００４】

また、インターネットファクシミリ装置が専用線を介してインターネットサービスプロバイダに接続されている場合には、インターネットファクシミリ装置間の通信については、追加の費用が加算されないので、インターネットファクシミリ装置の中継機能を利用すると、遠隔地間に配置されたファクシミリ装置間の画情報通信にかかる通信費用を大幅に削減できるというメリットもある。

【０００５】

【発明が解決しようとする課題】

さて、インターネットファクシミリ装置では、ローカルエリアネットワークに接続されているワークステーション装置との間で画情報をやりとりするとき、あるいは、インターネットを介して他のインターネットファクシミリ装置との間で画情報をやりとりするときには、その通信アプリケーションとして、電子メールが用いられている。

【０００６】

一方、インターネットを利用する電子メールには、そのデータ形式やプロトコルなどが規定されており、それぞれの電子メールのヘッダ情報には、宛先ユーザのメールアドレス（Ｔｏフィールド）のほかに、発信ユーザのメールアドレス（Ｆｒｏｍフィールド）や、本文情報の内容をあらわす件名情報（Ｓｕｂｊｅｃｔフィールド）などの種々の有意な情報が付加されている。

【０００７】

ところが、従来のインターネットファクシミリ装置では、電子メールのヘッダ情報のＦｒｏｍフィールドやＳｕｂｊｅｃｔフィールドには、使用するユーザの如何に問わず、インターネットファクシミリ装置に固有の情報が付加されていたため、同一インターネットファクシミリ装置から複数の画情報が配信されたユーザは、受信日時（あるいは送信日時）のみが異なり、発信者名と件名が同じ複数の電子メールを受信することになる。

【０００８】

すなわち、この場合、ワークステーション装置のユーザが電子メールの一覧情報を表示させると、例えば、図１４に示すような内容が表示される。

【０００９】

このようにして、同一インターネットファクシミリ装置から複数の電子メールを受信したユーザは、図１４に示したような電子メールの一覧情報からはそれぞれの電子メールの内容を伺い知ることができず、所望の画情報がある場合には、全ての電子メールの内容を表示させて探し出す必要があり、非常に不便であった。

【００１０】

本発明は、かかる実情に鑑みてなされたものであり、電子メールを扱うユーザの使い勝手を向上できる通信端末装置を提供することを目的としている。

【００１１】

【課題を解決するための手段】

本発明は、情報と、ワンタッチダイアルを識別するための識別番号とを対応付けて登録するワンタッチダイアル登録手段と、ＦｒｏｍフィールドとＳｕｂｊｅｃｔフィールドとを含む電子メールを送信する送信手段とを備えた通信端末装置であって、ユーザからの指示に基づいて入力された前記識別番号に対応付けて登録した前記情報が、電子メールアドレスであるか否かを判断する判断手段と、前記判断手段により電子メールアドレスであると判断した場合には、前記情報を前記Ｆｒｏｍフィールドに設定する一方、前記判断手段

により電子メールアドレスではないと判断した場合には、前記情報を前記Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドに設定する設定手段とを備えたものである。

【００１５】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面を参照しながら、本発明の実施の形態を詳細に説明する。

【００１６】

図１は、本発明の一実施例にかかる通信システムを示している。なお、本発明においては、インターネットを利用するアプリケーションとして電子メールを主として取り上げるので、以下の説明においては、電子メール以外のアプリケーションについては省略している。

【００１７】

この通信システムは、主として、米国に設けられたローカルエリアネットワークＬＡＮ１を中心とするドメインＤＭ１と、日本に設けられたローカルエリアネットワークＬＡＮ２を中心とするドメインＤＭ２から構成されている。また、ファクシミリ装置ＦＸ１は、米国内に設置され国際電話回線網ＰＳＴＮ（米国国内網を含む。）を伝送路として用いるグループ３ファクシミリ装置であり、ファクシミリ装置ＦＸ２は、日本国内に設置され国際電話回線網ＰＳＴＮ（日本国内網を含む。）を伝送路として用いるグループ３ファクシミリ装置である。

【００１８】

また、それぞれのドメインＤＭ１，ＤＭ２は、ルータＲＴ１，ＲＴ２を介して、インターネットＩＮＥＴのサービスプロバイダ（網接続業者；図示略）に専用線接続されている。

【００１９】

ここで、ドメインＤＭ１，ＤＭ２には、割り当てを受けたネットワークアドレスに所定値のネットマスクを適用して分割した固有のネットワークアドレスが設定されており、それにより、ドメインＤＭ１，ＤＭ２の相互間で、ルータＲＴ１，ＲＴ２およびインターネットＩＮＥＴを介したデータ伝送を行うことができる。

【００２０】

また、ドメインＤＭ１には、ローカルエリアネットワークＬＡＮ１に接続されているクライアント端末（パーソナルコンピュータ装置などからなるワークステーション装置一般を指す。）ＣＬ１，ＣＬ２およびインターネットファクシミリ装置ＦＩ１に電子メールサービスを提供するためのメールサーバ端末ＳＶ１が設けられている。また、例えば、おのおののクライアント端末ＣＬ１，ＣＬ２、インターネットファクシミリ装置ＦＩ１、および、メールサーバ端末ＳＶ１には、それぞれドメインＤＭ１のネットワークアドレスに固有のアドレスを連結してなる固有のホストアドレスが設定されており、このドメインＤＭ１を使用するユーザは、固有のユーザ名に、いずれかのクライアント端末ＣＬ１，ＣＬ２のホストアドレスを連結してなるユーザアドレスが設定される。

【００２１】

同様に、ドメインＤＭ２には、ローカルエリアネットワークＬＡＮ２に接続されているクライアント端末（パーソナルコンピュータ装置などからなるワークステーション装置一般を指す。）ＣＬ４，ＣＬ５およびインターネットファクシミリ装置ＦＩ２に電子メールサービスを提供するためのメールサーバ端末ＳＶ２が設けられている。また、例えば、おのおののクライアント端末ＣＬ４，ＣＬ５、インターネットファクシミリ装置ＦＩ２、および、メールサーバ端末ＳＶ２には、それぞれドメインＤＭ２のネットワークアドレスに固有のアドレスを連結してなる固有のホストアドレスが設定されており、このドメインＤＭ２を使用するユーザは、固有のユーザ名に、いずれかのクライアント端末ＣＬ４，ＣＬ５のホストアドレスを連結してなるユーザアドレスが設定される。

【００２２】

また、インターネットファクシミリＦＩ１，ＦＩ２は、ローカルエリアネットワークＬＡＮ１，ＬＡＮ２に接続して、画情報を電子メールとしてやりとりするための伝送機能と、国際電話回線網（公衆網）ＰＳＴＮに接続し、この国際電話回線網ＰＳＴＮを伝送路とし

て用いてグループ３ファクシミリ伝送手順による画情報伝送を行う伝送機能を備えている。

【００２３】

基本的には、ローカルエリアネットワークＬＡＮ１，ＬＡＮ２に接続されている端末相互間でのデータのやりとり、および、インターネットＩＮＥＴを介して行うデータのやりとりは、いわゆるＴＣＰ／ＩＰと呼ばれるトランスポートレイヤまでの伝送プロトコルと、それ以上の上位レイヤの通信プロトコルとの組み合わせ（いわゆるプロトコルスイート）が適用して行われる。例えば、電子メールのデータのやりとりでは上位レイヤの通信プロトコルとしてＳＭＴＰ（Ｓｉｍｐｌｅ Ｍａｉｌ Ｔｒａｎｓｆｅｒ Ｐｒｏｔｏｃｏｌ）という通信プロトコルが適用される。

【００２４】

また、本実施例では、電子メールは、メールサーバ端末ＳＶ１，ＳＶ２にいったん蓄積された後に宛先へと配信される蓄積配信型の伝送形態で送信される。このとき、電子メールに付されている宛先アドレス（後述）の値が、それぞれのドメインＤＭ１，ＤＭ２に設定されているネットワークアドレスを含む場合には、その電子メールは、対応するメールサーバ端末ＳＶ１，ＳＶ２にそのまま蓄積され、また、電子メールに付されている宛先アドレスの値が、それぞれのドメインＤＭ１，ＤＭ２に設定されているネットワークアドレス以外の値を含む場合には、その電子メールは、ルータＲＴ１，ＲＴ２を介して、インターネットＩＮＥＴに送り出され、インターネットＩＮＥＴのデータ転送機能により、その宛先アドレスの値に対応したネットワークアドレスを持つ適宜なドメインあるいはホストなどに送信される。

【００２５】

また、各端末がメールサーバ端末ＳＶ１，ＳＶ２に対して、ユーザ宛の電子メールの受信確認のために適用するプロトコルは、いわゆるＰＯＰ（Ｐｏｓｔ Ｏｆｆｉｃｅ Ｐｒｏｔｏｃｏｌ）などが適用される。

【００２６】

ここに、電子メールには、直接バイナリデータを含ませることができず、所定の変換方法（例えば、Ｂａｓｅ６４符号化方法）を適用して可読情報（７ビットのキャラクタコード）に変換した状態で、電子メールに含められる。このような電子メールの形式をＭＩＭＥ（Ｍｕｌｔｉｐｕｒｐｏｓｅ Ｉｎｔｅｒｎｅｔ Ｍａｉｌ Ｅｘｔｅｎｓｉｏｎｓ（多目的メール）；ＲＦＣ（後述）１５２１，ＲＦＣ１５２２参照）形式といい、ＭＩＭＥ形式の本文情報を作成するための変換処理をＭＩＭＥ変換という。

【００２７】

また、ＴＣＰ／ＩＰ，ＳＭＴＰ，ＰＯＰなどの通信プロトコル、および、電子メールのデータ形式やデータ構造などについては、それぞれＩＥＴＦ（Ｉｎｔｅｒｎｅｔ Ｅｎｇｉｎｅｅｒｉｎｇ Ｔａｓｋ Ｆｏｒｃｅ）というインターネットに関する技術内容をまとめている組織から発行されているＲＦＣ（Ｒｅｑｕｅｓｔ Ｆｏｒ Ｃｏｍｍｅｎｔｓ）文書により規定されている。例えば、ＴＣＰはＲＦＣ７９３、ＩＰはＲＦＣ７９３、ＳＭＴＰはＲＦＣ８２１、電子メールの形式は、ＲＦＣ８２２，ＲＦＣ１５２１，ＲＦＣ１５２２（ＭＩＭＥ形式）などでそれぞれ規定されている。

【００２８】

図２は、インターネットファクシミリ装置ＦＩ１，ＦＩ２の構成例を示している。

【００２９】

同図において、システム制御部１は、このファクシミリ装置の各部の制御処理、および、ファクシミリ伝送制御手順処理などの各種制御処理を行うものであり、システムメモリ２は、システム制御部１が実行する制御処理プログラム、および、処理プログラムを実行するときに必要な各種データなどを記憶するとともに、システム制御部１のワークエリアを構成するものであり、パラメータメモリ３は、このファクシミリ装置に固有な各種の情報を記憶するためのものであり、時計回路４は、現在時刻情報を出力するものである。

【００３０】

スキャナ５は、所定の解像度で原稿画像を読み取るためのものであり、プロッタ６は、所定の解像度で画像を記録出力するためのものであり、操作表示部７は、このファクシミリ装置を操作するためのもので、各種の操作キー、および、各種の表示器からなる。

【００３１】

符号化復号化部８は、画信号を符号化圧縮するとともに、符号化圧縮されている画情報を元の画信号に復号化するためのものであり、画像蓄積装置９は、符号化圧縮された状態の画情報を多数記憶するためのものである。

【００３２】

グループ３ファクシミリモデム１０は、グループ３ファクシミリのモデム機能を実現するためのものであり、伝送手順信号をやりとりするための低速モデム機能（Ｖ．２１モデム）、および、おもに画情報をやりとりするための高速モデム機能（Ｖ．１７モデム、Ｖ．３４モデム、Ｖ．２９モデム、Ｖ．２７ｔｅｒモデムなど）を備えている。

【００３３】

網制御装置１１は、このファクシミリ装置を国際電話回線網ＰＳＴＮに接続するためのものであり、自動発着信機能を備えている。

【００３４】

ローカルエリアネットワークインターフェース回路１２は、このインターネットファクシミリ装置をローカルエリアネットワークに接続するためのものであり、ローカルエリアネットワーク伝送制御部１３は、ローカルエリアネットワークおよびインターネットを介して、他のデータ端末装置との間で種々のデータをやりとりするための所定のプロトコルスイートの通信制御処理を実行するためのものである。

【００３５】

これらの、システム制御部１、システムメモリ２、パラメータメモリ３、時計回路４、スキャナ５、プロッタ６、操作表示部７、符号化復号化部８、画像蓄積装置９、グループ３ファクシミリモデム１０、網制御装置１１、および、ローカルエリアネットワーク伝送制御部１３は、内部バス１４に接続されており、これらの各要素間でのデータのやりとりは、主としてこの内部バス１４を介して行われている。

【００３６】

また、網制御装置１１とグループ３ファクシミリモデム１０との間のデータのやりとりは、直接行なわれている。

【００３７】

さて、例えば、インターネットファクシミリ装置ＦＩ２では、インターネットファクシミリ装置ＦＩ２を直接操作して、クライアント端末ＣＬ１，ＣＬ２やクライアント端末ＣＬ４、ＣＬ５のユーザに対して画情報を送信することができる。

【００３８】

ただし、インターネットファクシミリ装置ＦＩ２の操作表示部７に備えられている操作キーは、その占有スペースやデザインの統一性などの観点から、例えば、クライアント端末ＣＬ（ＣＬ１，ＣＬ２，ＣＬ４，ＣＬ５）に備えられているキーボード装置などに比べて操作性が劣る。

【００３９】

そこで、このような操作性の悪さを解消できるようにするために、ワンタッチダイアルキーに、宛先電話番号のみならず、宛先ユーザのメールアドレス、および、発信ユーザのメールアドレスを登録できるようにしている。ここで、ワンタッチダイアルキーとは、１つのキー（ワンタッチダイアルキー）操作で電話番号などを指定入力することのできるワンタッチダイアルキー機能において、入力手段として用いられるものである。

【００４０】

そのために、インターネットファクシミリ装置ＦＩ２には、例えば、図３に示すようなワンタッチダイアルテーブルが保存される。

【００４１】

このワンタッチダイアルテーブルのそれぞれの要素は、おのおののワンタッチダイアルを

識別するための番号、電話番号またはメールアドレスが登録される登録番号、および、登録番号の名称を登録するための登録名称からなる。この場合、登録番号として登録されるメールアドレスと、登録名称として登録される発信ユーザ名を、送信者固有情報として用いることができる。

【００４２】

図４は、直接操作時のインターネットファクシミリ装置ＦＩ２の処理の概略を示している。

【００４３】

まず、ユーザ送信操作が行われる（処理１０１）。このユーザ送信操作では、ユーザは、スキャナ５に送信原稿をセットし、宛先ユーザのメールアドレスおよび自分のメールアドレスなどを入力し、スタートキーを入力して、送信動作の開始を指令する。

【００４４】

次に、ユーザ送信操作処理（処理１０１）で操作入力された内容の解析が行われ（処理１０２）、その入力情報解析処理の処理内容に応じて電子メールのヘッダ情報が作成される（処理１０３）。

【００４５】

そして、送信原稿の読み取り、それによって得られた画像データを符号化複号化部８で符号化圧縮して送信画情報を作成し（処理１０４）、その送信画情報をＭＩＭＥ変換して（処理１０５）、電子メールの本文情報を作成し、処理１０３で作成したヘッダ情報と処理１０５で作成した本文情報からなる電子メールを、メールサーバに対して送信する（処理１０６）。

【００４６】

ユーザ送信操作処理（処理１０１）の一例を図５に示す。

【００４７】

まず、発信ユーザは、スキャナ５に送信原稿をセットする（処理２０１）。次いで、送信宛先の宛先情報をワンタッチキーを用いて入力する（処理２０２）。なお、このとき、宛先ユーザのメールアドレスなどの宛先情報は、直接操作表示部７のキーを用いて入力することもできる。

【００４８】

次に、発信ユーザは、操作表示部７に設けられているポーズキー（図示略）を入力し（処理２０３）、自分に付与されているメールアドレスなどの送信者固有情報を、ワンタッチキーあるいは操作表示部７のキーを用いて入力する（処理２０４）。なお、送信者固有情報としては、メールアドレスの他に、自分の所属する部署名や、自分の名前などがある。また、発信ユーザは、この処理２０４の送信者固有情報の入力を省略することもできる。

【００４９】

最後に、操作表示部７に設けられているスタートキー（図示略）を入力し（処理２０５）、このユーザ送信操作処理を終了する。

【００５０】

入力情報解析処理（処理１０２）、および、ヘッダ情報作成処理（処理１０３）の一例を図６に示す。

【００５１】

まず、送信宛先がメールアドレスであったかどうかを調べ（判断３０１）、判断３０１の結果がＮＯになるときには、通常のファクシミリ送信処理を実行する（処理３０２）。

【００５２】

また、判断３０１の結果がＹＥＳになるときには、次の入力情報があるかどうかを調べ（判断３０３）、判断３０３の結果がＮＯになるときには、例えば、図７（ａ）に示すように、ヘッダ情報のＦｒｏｍフィールドに自端末に設定されている装置固有アドレス（この場合は、「ｉｎｅｔ－ｆａｘ@ａｂｃｄ．ｃｏ．ｊｐ」）を設定するとともに、Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドに自端末に設定されている固有内容（この場合は、「ＦＡＸ　Ｍｅｓｓａｇｅ　ｆｒｏｍ　Ｉｎｔｅｒｎｅｔ　ＦＡＸ」）を設定して（処理３０４）、この処理

を終了する。

【００５３】

また、判断３０３の結果がＹＥＳになるときには、その入力情報の内容がメールアドレスであるかどうかを調べる（判断３０５）。判断３０５の結果がＹＥＳになるときには、例えば、図７（ｂ）に示すように、ヘッダ情報のＦｒｏｍフィールドには入力されたメールアドレス（この場合は、「ｕｓｅｒ１@ａｂｃｄ．ｃｏ．ｊｐ」）を設定するとともに、Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドに自端末に設定されている固有内容（この場合は、「ＦＡＸ Ｍｅｓｓａｇｅ ｆｒｏｍ Ｉｎｔｅｒｎｅｔ ＦＡＸ」）を設定して（処理３０６）、この処理を終了する。

【００５４】

また、判断３０５の結果がＮＯになるときには、例えば、図７（ｃ）に示すように、ヘッダ情報のＦｒｏｍフィールドには自端末に設定されている装置固有アドレス（この場合は、「ｉｎｅｔ－ｆａｘ@ａｂｃｄ．ｃｏ．ｊｐ」）を設定するとともに、Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドに入力された送信者固有情報の内容（この場合は、「ＦＡＸ Ｍｅｓｓａｇｅ ｆｒｏｍ ［発信ユーザ名１］」）を設定して（処理３０７）、この処理を終了する。なお、この場合には、送信者固有情報として［発信ユーザ名１］が入力されている場合である。

【００５５】

したがって、この場合には、インターネットファクシミリ装置ＦＩ２から電子メールを受信したユーザは、例えば、図８に示したような電子メール一覧情報を得ることができ、件名の表示内容（受信した電子メールのＳｕｂｊｅｃｔフィールドの内容）、または、発信者名の表示内容（受信した電子メールのＦｒｏｍフィールドの内容）から、ユーザは、電子メールの内容の予想をすることができ、所望する電子メールを容易に探し出すことができる。

【００５６】

図９は、本発明の他の実施例にかかるユーザ送信操作処理（処理１０１）の一例を示している。

【００５７】

まず、発信ユーザは、スキャナ５に送信原稿をセットする（処理４０１）。次いで、送信宛先の宛先情報をワンタッチキーを用いて入力する（処理４０２）。なお、このとき、宛先ユーザのメールアドレスなどの宛先情報は、直接操作表示部７のキーを用いて入力することもできる。

【００５８】

次に、発信ユーザは、操作表示部７に設けられているポーズキー（図示略）を入力し（処理４０３）、自分に付与されているメールアドレスなどの送信者固有情報を、ワンタッチキーあるいは操作表示部７のキーを用いて入力する（処理４０４）。なお、送信者固有情報としては、メールアドレスの他に、自分の所属する部署名や、自分の名前などがある。また、発信ユーザは、この処理４０４の送信者固有情報の入力を省略することもできる。

【００５９】

そして、再度ポーズキーを入力し（処理４０５）、送信メールの属性の内容、例えば、「緊急」や、「重要」などを操作入力する（処理４０６）。この属性の入力操作は、例えば、あらかじめ属性内容をワンタッチキーに登録している場合には、そのワンタッチキーの選択操作のみで行うこともできるし、操作表示部７に属性を入力するための特別なキーを設け、その属性キーを入力操作することで行うようにすることもできる。また、発信ユーザは、この属性の入力を省略することもできる。

【００６０】

最後に、操作表示部７に設けられているスタートキー（図示略）を入力し（処理４０７）、このユーザ送信操作処理を終了する。

【００６１】

図１０は、入力情報解析処理（処理１０２）、および、ヘッダ情報作成処理（処理１０３

）の他の例を示している。

【００６２】

まず、送信宛先がメールアドレスであったかどうかを調べ（判断５０１）、判断５０１の結果がＮＯになるときには、通常のファクシミリ送信処理を実行する（処理５０２）。

【００６３】

また、判断５０１の結果がＹＥＳになるときには、次の入力情報があるかどうかを調べ（判断５０３）、判断５０３の結果がＮＯになるときには、例えば、図７（ａ）に示すように、ヘッダ情報のＦｒｏｍフィールドに自端末に設定されている装置固有アドレス（この場合は、「ｉｎｅｔ－ｆａｘ@ａｂｃｄ．ｃｏ．ｊｐ」）を設定するとともに、Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドに自端末に設定されている固有内容（この場合は、「ＦＡＸ　Ｍｅｓｓａｇｅ　ｆｒｏｍ　Ｉｎｔｅｒｎｅｔ　ＦＡＸ」）を設定する（処理５０４）。

【００６４】

また、判断５０３の結果がＹＥＳになるときには、その入力情報の内容がメールアドレスであるかどうかを調べる（判断５０５）。判断５０５の結果がＹＥＳになるときには、例えば、図７（ｂ）に示すように、ヘッダ情報のＦｒｏｍフィールドには入力されたメールアドレス（この場合は、「ｕｓｅｒ１@ａｂｃｄ．ｃｏ．ｊｐ」）を設定するとともに、Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドに自端末に設定されている固有内容（この場合は、「ＦＡＸ　Ｍｅｓｓａｇｅ　ｆｒｏｍ　Ｉｎｔｅｒｎｅｔ　ＦＡＸ」）を設定する（処理５０６）。

【００６５】

また、判断５０５の結果がＮＯになるときには、例えば、図７（ｃ）に示すように、ヘッダ情報のＦｒｏｍフィールドには自端末に設定されている装置固有アドレス（この場合は、「ｉｎｅｔ－ｆａｘ@ａｂｃｄ．ｃｏ．ｊｐ」）を設定するとともに、Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドに入力された送信者固有情報の内容（この場合は、「ＦＡＸ　Ｍｅｓｓａｇｅ　ｆｒｏｍ　［発信ユーザ名１］」）を設定する（処理５０７）。

【００６６】

このようにして、一通りＦｒｏｍフィールドとＳｕｂｊｅｃｔフィールドの内容の設定を終了すると、次に、属性入力がされているかどうかを調べる（判断５０８）。判断５０８の結果がＹＥＳになるときには、例えば、図７（ｄ）に示すように、Ｓｕｂｊｅｃｔフィールドの内容を、それまでに設定された内容にそのときに入力された属性の内容を付加したものに変更し（処理５０９）、この処理を終了する。なお、図７（ｄ）の例では、属性の内容として「＜緊急＞」を付加している。

【００６７】

また、判断５０９の結果がＮＯになるときには、そのままこの処理を終了する。

【００６８】

したがって、この場合には、インターネットファクシミリ装置ＦＩ２から電子メールを受信したユーザは、例えば、図１１に示したような電子メール一覧情報を得ることができ、件名、または、発信者名の表示内容から、ユーザは、電子メールの内容の予想をすることができ、所望する電子メールを容易に探し出すことができる。

【００６９】

また、メールの属性も同時に表示されるので、電子メールの重要度や緊急度を知ることができ、電子メールの検索がより簡単になり、使い勝手が大幅に向上する。

【００７０】

ところで、ワンタッチダイアルテーブルの内容として、図１２に示すように、宛先ユーザと発信ユーザのメールアドレスを対にして登録するようにすると、発信ユーザは、１つのワンタッチダイアルキーを操作するだけで、宛先ユーザのメールアドレスと自分のメールアドレス（発信メールアドレス）を入力することができるので便利である。

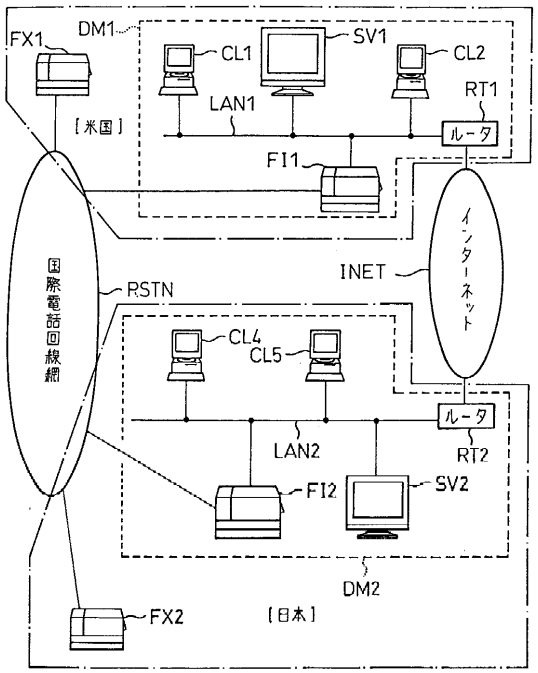
【００７１】

なお、この場合には、入力情報解析処理（処理１０３）およびヘッダ情報作成処理（処理１０４）では、入力されたワンタッチダイアルキーに登録されている登録番号のメールアドレスを宛先メールアドレスに用い、発信メールアドレスを送信者固有情報として入力さ

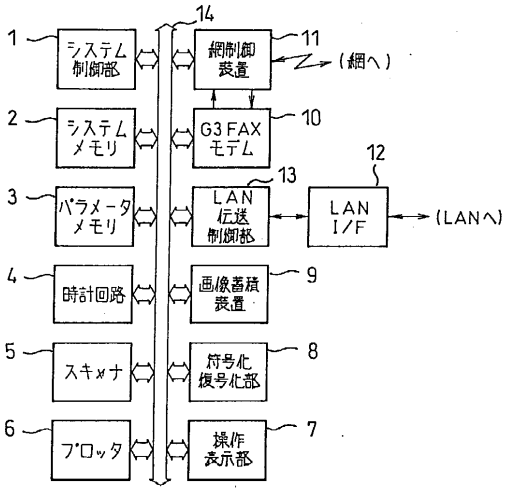
れたメールアドレスとして用いるようにすればよい。
【００７２】
この場合のワンタッチダイアル情報の登録処理の一例を図１３に示す。
【００７３】
まず、宛先の番号情報の登録操作が終了すると（処理６０１）、その登録内容がメールアドレスであるかどうかを調べ（判断６０２）、判断６０２の結果がＹＥＳになるときには、例えば、「自分のアドレスを入力しますか？（ＹＥＳ／ＮＯ）」という自アドレス入力問い合わせガイダンスメッセージを表示する（処理６０３）。
【００７４】
この自アドレス入力問い合わせガイダンスメッセージに対して、ユーザが「ＹＥＳ」と入力した場合には（判断６０４の結果がＹＥＳ）、Ｆｒｏｍアドレス、すなわち、発信メールアドレスの登録操作を行う（処理６０５）。
【００７５】
また、自アドレス入力問い合わせガイダンスメッセージに対して、ユーザが「ＮＯ」と入力した場合には（判断６０４の結果がＮＯ）、発信メールアドレスの登録操作を行わず、この動作を終了する。
【００７６】
これにより、ユーザは、ワンタッチダイアルキーに、宛先メールアドレスと自分のメールアドレス（発信メールアドレス）を登録することができる。
【００７７】
ところで、上述した実施例では、ワンタッチダイアルテーブルに登録する送信者固有情報として、発信ユーザ名を用いたが、それ以外の送信者固有情報を登録しておくこともできる。例えば、会社名、部署名、あるいは、ニックネームなどである。
【００７８】
また、上述した実施例では、送信者固有情報として１つの情報を入力しているが、２つ以上の送信者固有情報を入力することもできる。その場合、メールアドレスはＦｒｏｍフィールドに配置し、それ以外の情報はＳｕｂｊｅｃｔフィールドに配置すればよい。
【００７９】
また、上述した実施例では、インターネットファクシミリ装置が公衆網としてＰＳＴＮを適用しているが、ＩＳＤＮを適用する場合についても、本発明を同様にして適用することができる。
【００８０】
【発明の効果】
以上説明したように、本発明によれば、インターネットファクシミリ装置から受信した電子メールのＦｒｏｍフィールドまたはＳｕｂｊｅｃｔフィールドには、送信者固有情報の内容が配置されるため、ユーザは、電子メールの一覧情報の内容を参照してそれぞれの電子メールの内容の予想をすることができ、所望する電子メールを容易に探し出すことができるという効果を得る。
【００８１】
また、発信ユーザは、メールの属性も操作入力でき、それにより、受信側のユーザが受け取る電子メールのＳｕｂｊｅｃｔフィールドにメールの属性が付加されるので、受信側のユーザは、電子メールの重要度や緊急度を知ることができ、電子メールの検索がより簡単になり、使い勝手が大幅に向上するという効果も得る。
【００８２】
また、１つのワンタッチダイアルキーに、宛先ユーザと発信ユーザのメールアドレスが対にして登録されるので、発信ユーザは、１つのワンタッチダイアルキーを操作するだけで、宛先ユーザのメールアドレスと自分のメールアドレス（発信メールアドレス）を入力することができ、発信時の操作性が向上するという効果も得る。
【図面の簡単な説明】
【図１】本発明の一実施例にかかる通信システムを示したブロック図。

【図２】インターネットファクシミリ装置ＦＩ１，ＦＩ２の構成例を示したブロック図。
【図３】ワンタッチダイアルテーブルの一例を示した概略図。
【図４】直接操作時のインターネットファクシミリ装置ＦＩ２の処理の概略を示したフローチャート。
【図５】ユーザ送信操作処理（処理１０１）の一例を示したフローチャート。
【図６】入力情報解析処理（処理１０２）、および、ヘッダ情報作成処理（処理１０３）の一例を示したーチャート。
【図７】ヘッダ情報の一例を示した概略図。
【図８】本発明の一実施例にかかる電子メール一覧情報を例示した概略図。
【図９】本発明の他の実施例にかかるユーザ送信操作処理（処理１０１）の一例を示したフローチャート。
【図１０】入力情報解析処理（処理１０２）、および、ヘッダ情報作成処理（処理１０３）の他の例を示したフローチャート。
【図１１】本発明の他の実施例にかかる電子メール一覧情報を例示した概略図。
【図１２】ワンタッチダイアルテーブルの他の例を示した概略図。
【図１３】ワンタッチダイアル情報の登録処理の一例を示したフローチャート。
【図１４】電子メール一覧情報の従来例を示した概略図。
【符号の説明】
ＦＩ１，ＦＩ２　インターネットファクシミリ装置
１　システム制御部

【図１】



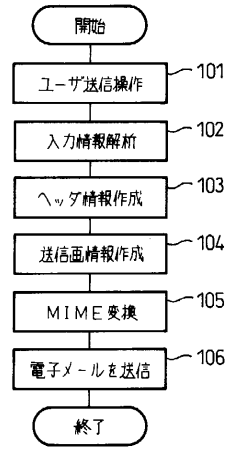
【図２】



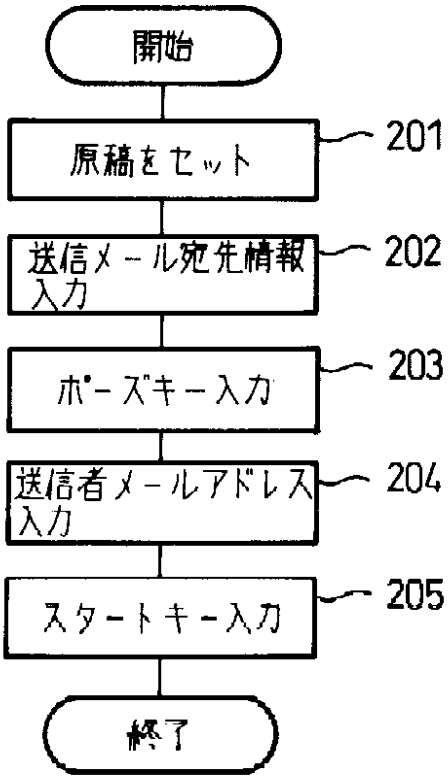
【図３】

番号	登録番号	登録名称
1	0123-4567-8901	△△支店
2	user1@abcd.co.jp	［発信ユーザ名１］
3	user2@abcd.co.jp	［発信ユーザ名２］
4	user-a@xyz.co.jp	［宛先ユーザ名１］
・・	・・・	・・・

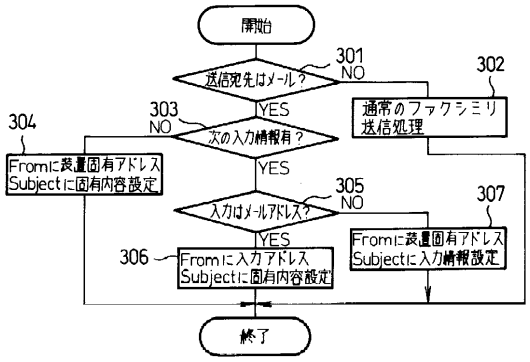
【図４】



【図５】



【図６】



【図７】

(a)

Message-ID: <33833388.4CC6E3C4@abcd.co.jp>
Date: Thu, 05 Jan 1998 12:00:00 +0900
Fom: <inet-fax@abcd.co.jp>
To: user-a@xyz.co.jp
Subject: FAX Message from Internet FAX

(b)

Message-ID: <33833388.4CC6E3C4@abcd.co.jp>
Date:Thu, 05 Jan 1998 12:00:00 +0900
From:<user1@abcd.co.jp>
To: user-a@xyz.co.jp
Subject: FAX Message from Internet FAX

(c)

Message-ID: <33833388.4CC6E3C4@abcd.co.jp>
Date:Thu, 05 Jan 1998 12:00:00 +0900
From:<inet-fax@abcd.co.jp>
To: user-a@xyz.co.jp
Subject: FAX Message from［発信ユーザ名 1］

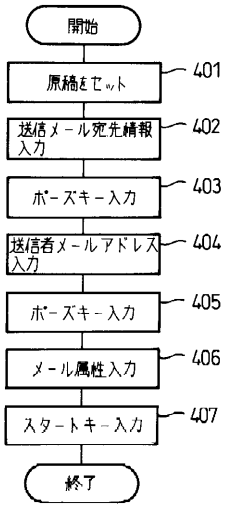
(d)

Message-ID: <33833388.4CC6E3C4@abcd.co.jp>
Date:Thu, 05 Jan 1998 12:00:00 +0900
From:<inet-fax@abcd.co.jp>
To: user-a@xyz.co.jp
Subject:<緊急> FAX Message from Internet FAX

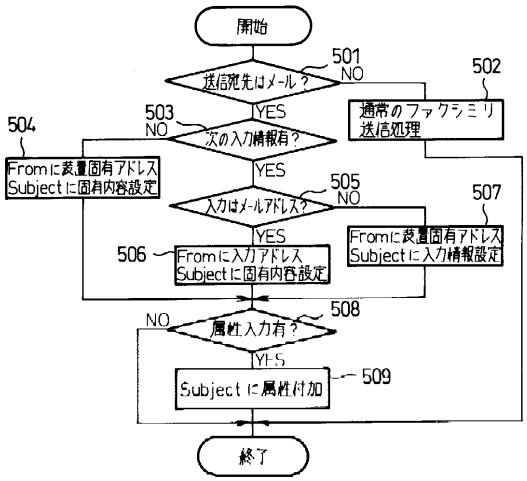
【図８】

番号	件名	日時	発信者
1	FAX Message from Internet FAX	01/05 12:12	inet-fax@abcd.co.jp
2	FAX Message from［発信ユーザ名 1］	01/05 12:15	inet-fax@abcd.co.jp
3	FAX Message from Internet FAX	01/05 13:00	user1@abcd.co.jp
4	FAX Message from Internet FAX	01/05 13:20	user2@abcd.co.jp
5	FAX Message from［発信ユーザ名 2］	01/05 14:40	inet-fax@abcd.co.jp
6	FAX Message from Internet FAX	01/05 15:19	inet-fax@abcd.co.jp
7	FAX Message from Internet FAX	01/05 15:22	user3@abcd.co.jp
8	FAX Message from Internet FAX	01/05 15:38	user4@abcd.co.jp

【図９】



【図１０】



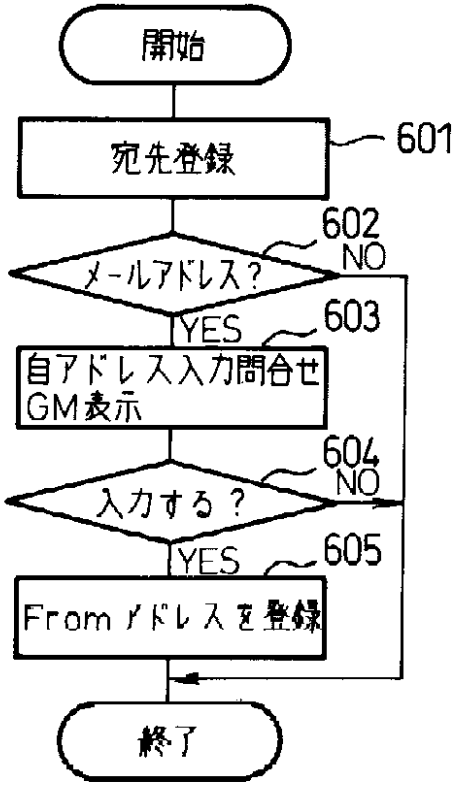
【図１１】

番号	件名	日時	発信者
1	FAX Message from Internet FAX	01/05 12:12	inet-fax@abcd.co.jp
2	FAX Message from［発信ユーザ名 1］	01/05 12:15	inet-fax@abcd.co.jp
3	FAX Message from Internet FAX	01/05 13:00	user1@abcd.co.jp
4	FAX Message from Internet FAX	01/05 13:20	user2@abcd.co.jp
5	FAX Message from［発信ユーザ名 2］	01/05 14:40	inet-fax@abcd.co.jp
6	<緊急>FAX Message from Internet FAX	01/05 15:19	inet-fax@abcd.co.jp
7	<重要>FAX Message from Internet FAX	01/05 15:22	user3@abcd.co.jp
8	<緊急>FAX Message from Internet FAX	01/05 15:38	user4@abcd.co.jp

【図１２】

番号	登録番号	登録名称	発信メールアドレス	発信者名
1	0123-4567-8901	△△支店		
2	user-a@xyz.co.jp	［宛先ユーザ名 1］	user1@abcd.co.jp	［発信ユーザ名 1］
3	user-a@xyz.co.jp	［宛先ユーザ名 1］	user1@abcd.co.jp	［発信ユーザ名 2］
・・	・・・	・・・	・・・	・・・

【図１３】



【図１４】

番号	件名	日時	発信者
1	FAX Message from Internet FAX	01/05 12:12	inet-fax@abcd.co.jp
2	FAX Message from Internet FAX	01/05 12:15	inet-fax@abcd.co.jp
3	FAX Message from Internet FAX	01/05 13:00	inet-fax@abcd.co.jp
4	FAX Message from Internet FAX	01/05 13:20	inet-fax@abcd.co.jp
5	FAX Message from Internet FAX	01/05 14:40	inet-fax@abcd.co.jp
6	FAX Message from Internet FAX	01/05 15:19	inet-fax@abcd.co.jp
7	FAX Message from Internet FAX	01/05 15:22	inet-fax@abcd.co.jp
8	FAX Message from Internet FAX	01/05 15:38	inet-fax@abcd.co.jp

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平１０－０９１５５３（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－２４２３２６（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－０９３７５１（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－４１９７３（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－５１５７５（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－４２１２３（ＪＰ，Ａ）
特開平９－１０２８３０（ＪＰ，Ａ）
特開平８－２４２３２６（ＪＰ，Ａ）
特開平５－３０８３７５（ＪＰ，Ａ）
特開平９－２５２３９３（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－４２０６８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
G06F 13/00
H04N 1/00
H04N 1/32
H04L 12/54-58